

## 4-9 御前崎, 松崎における地磁気観測

### Geomagnetic Observation at Matsuzaki and Omaezaki

気象庁地磁気観測所

Magnetic Observatory, Japan Meteorological Agency

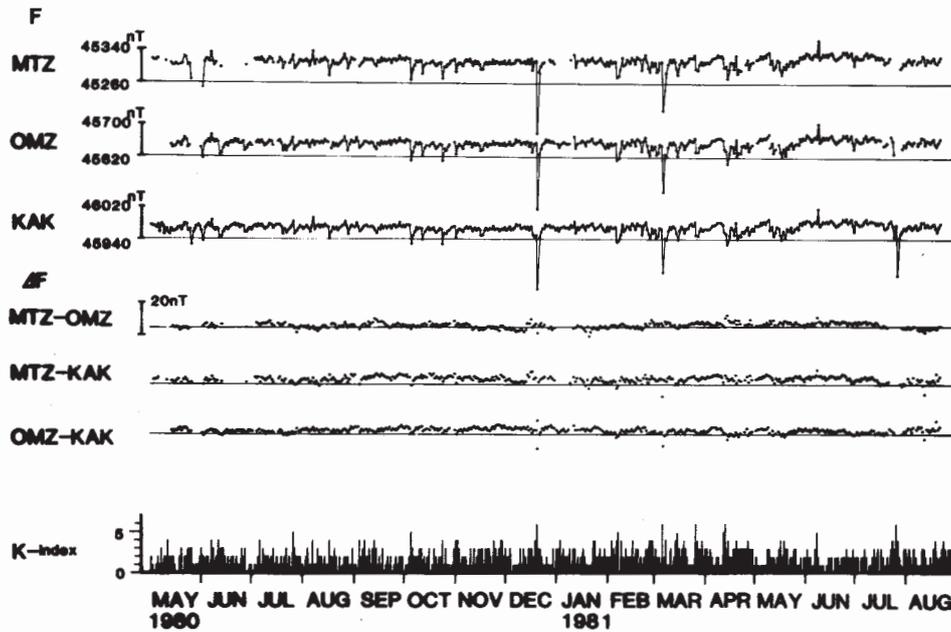
「東海地域における地震前兆現象の検出に関する総合研究」の地球電磁気部門を分担し、地磁気観測所は御前崎, 松崎の2地点で1980年5月より地磁気観測を実施している。その後課題名は「フィリピン海プレート北端部の地震テクトニクスに関する特定総合研究」に変わり、Ⅲ地殻活動に関する観測研究, ①地球電磁気変化および地電位変化の観測研究の分担課題として継続実施している。2地点の観測施設の概要<sup>1)</sup>ならびに1980年7月までの観測結果<sup>2)</sup>については既に報告した。ここでは、観測開始から1981年8月までの全磁力変化について報告する。

第1図は、全磁力について1980年5月から1981年8月までの16か月の御前崎, 松崎, 柿岡の日々の夜間値(0時~3時の毎分計測値の平均)と測点間相互差の長期変化を示す。図の下段には、対応する時間の柿岡におけるK指数も与えられている。3地点に共通して見られる大きな変動は、DstまたはD<sub>p</sub>など地球外部に原因をもつ変化に対応している。

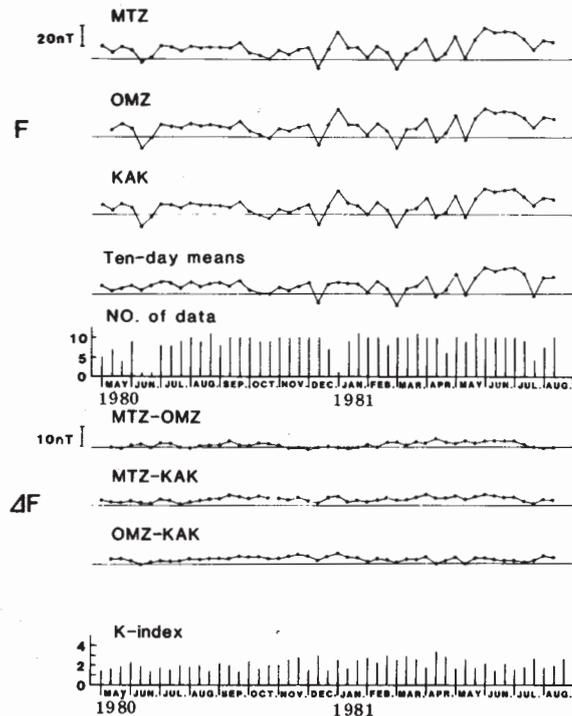
第2図は、上の結果を旬平均で示したもので、3地点の全磁力変化, 測点間相互差を示す。御前崎, 松崎のいずれかの測点に欠測のある日を除き、完全に対応する日だけを用いて示してある。図の中段の棒グラフで示した「No. of data」がその採用日数である。期間を通じての柿岡における全磁力変化は「Ten day means」によって与えられている。測点間の相互差は、第1図に比べて短周期の主として外部磁場変化の差によると見られる変化はほぼ消去され、経年的な長周期変化がわずかに認められるが、これについては更に観測を継続して原因を明らかにすべきである。この期間については、地殻活動による明瞭な地磁気変化は認められていない。

#### 参 考 文 献

- 1) 地磁気観測所：伊豆, 東海地域における地磁気による地震予知観測, 連絡会報 **24** (1980), 126-127.
- 2) 地磁気観測所：御前崎・松崎における全磁力変化, 連絡会報 **25** (1980), 141-142.



第1図 御前崎，松崎，柿岡における全磁力夜間値およびこれら3測点間の全磁力相互差  
 Fig. 1 Day to day changes of both nighttime total-force intensities at three stations, Omaezaki, Matsuzaki and Kakioka, and difference of the intensities between each two stations.



第2図 御前崎，松崎，柿岡における全磁力夜間値の旬平均値とこれら3測点間の全磁力相互差。下段に柿岡におけるK-指数を示す。

Fig. 2 Ten-day means of nighttime total-force intensities at Omaezaki, Matsuzaki and Kakioka and difference of the intensities between each two stations. K-indices of the same nighttime are also shown in the bottom.